



●平成 20 年の課題

(財) 名古屋市工業技術振興協会

会 長 松尾 隆徳

新年おめでとう！区切りの良い平成 20 年を賛助員の皆様方、明るい朗らかなお気持ちでお迎えになられたことと存じます。本年もよろしく。

平成 19 年は大半の賛助員は好調な市況の中で終始されたと思います。市況の追い風は勿論のことですが、永年に渡る企業改善努力、とり分け技術改善、技能向上の努力の成果であると自信を持ちましょう。

平成 20 年はどうでしょうか？
どうも不安がよぎります。

- (1) 原材料価格は高止まり
- (2) 人件費は上がり、人手も不足
- (3) 円高による輸出の低下予測
- (4) 売値、加工賃金の頭打ち
- (5) 国内需要の頭打ち

どうやら、中小企業にとっては逆風が吹きかけている。昨年とは環境が変わりだした。

事業継続のため、必要な発想は質の重視でしょう。量も必要でしょうが、質への比重を移す時です。選択と集中です。何を切り捨てるか。不要不急、不採算なものを止め、残るところの経営資源（人・物・金・情報）を自分の意識とするところに集中する。不得意なものは止めるか、人に頼む。この 2～3 年間の好況で身に付いた「ぜい肉」を早く切り捨てよう。

名工振・市工研を大いに活用してください。この地方の工業界、とり分け名古屋市内の中小企業が技術・技能の向上により発展すること、それを支援するのが名工振・市工研の最大の役割です。

名工振・市工研を活用して、隣の会社より技術・技能面で優位に立つことです。

次にその優位性をどこに向けるかです。即ち、市場・顧客の見直しです。成長力のあるパートナーの発見であります。

幸いにも、名工振・市工研にはこの地方の工業界の情報が集中しています。この情報を活用して、向うべき市場・顧客を判断して下さい。そのため、名工振・市工研の扉をたたいて下さい。名工振・市工研は市内の中小企業にお役に立つことが使命ですから。

最後に、現在、名工振には大きな課題が発生しつつあります。名古屋市の行政改革に伴う事業組織の見直しと公益法人の見直し、存続問題です。名古屋市の行政評価では名工振は満点ではありません。他組織との合体等も過去には指摘されました。国としての公益法人の整理統合は今年より本格化します。

この問題に対しての基本的発想は、本来の名工振の技術・技能サービス機能をしっかり果し、市内の中小企業の成長・発展に寄与している姿が明確に認知されれば、すべて解決すると思っています。とにかく形の問題とされがちですが、内容・中身で勝負です。中身が充実すれば、形はあとから追従します。

平成 20 年、名工振も必死で頑張ります。賛助員の皆様の発展・成長のために！

企業の職業倫理感の確立も同時に！